

(JOGA9) 東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワーク (ガンカモ類) 支援鳥類学研究者グループ第9回集会

## 東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ (EAAF パートナーシップ)の発足と協力

日韓のガンカモ類の共通点・特色、韓国で開催される第10回ラムサール条約締約国会議を控えて

企画者 (代)神谷要(中海水鳥国際交流基金財団)・呉地正行(日本雁を保護する会)  
岸本伸彦 ((財)日本野鳥の会自然保護室)・須川恒(琵琶湖ラムサール研究会)

### 自由集会開催趣旨

「東アジア地域ガンカモ類重要生息地ネットワーク」(ガンカモネットワーク)は、1999年5月14日、コスタリカの第7回ラムサール条約締約国会議において、「アジア・太平洋地域渡り性水鳥保全戦略」の三番目のネットワークとして設立された。これを支援するためにガンカモネットワークの活動を支援する鳥学研究者のグループ(JOGA)が設立され、毎年日本鳥学会で自由集会「JOGA」を開催している。昨年、「アジア・太平洋地域渡り性水鳥保全戦略」が発展的に解消され、「東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ」(以下、EAAF パートナーシップ)が発足されたのを受け、改めて今後のガンカモネットワーク(注1)のありかたと、研究者の役割を検討したい。

また、2008年秋には、韓国南部の昌原<sup>チャンウォン</sup>で、第10回ラムサール条約締約国会議が開催される事となっている。東アジアで開催される2回目の締約国会議であり、日本近隣国の湿地保全をすすめる上で、大きな機会となるであろう。今回の鳥学会では、九州開催という地の利を生かし、JOGA9として、韓国と日本のガンカモ類の共通点と特色を確認する。特に、ネットワーク議長の呉地正行氏と韓国ラムサールセンターから Lee Chan-woo 氏に参加いただき、既に行われている協力関係、東アジアのガンカモ類と水田環境の保全運動など、締約国会議に向けて今後の(鳥学的)課題を整理したい。

(注1); EAAF パートナーシップ移行をうけて、ガンカモネットワーク(略称)の正式名称は「東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワーク(ガンカモ類)」となった。

### 世界水鳥個体数推定 第四版の日本語版公開、および EAAF パートナーシップの発足について

・岸本伸彦((財)日本野鳥の会自然保護室)

### アジア水鳥センサスとモニタリングサイト 1000 について

・阪口法明(環境省生物多様性センター)

### 韓国の水鳥に配慮した農法を支援する法制度と日本の現状

・呉地 正行(日本雁を保護する会)

### “The comparative study on habitat use pattern of wintering swans in two wetlands; Nakdong River Estuary (S. Korea) and Lake Nakumi area (Japan)

・LEE Chan-woo (Ramsar Wetland Center Korea)

### ガンカモネットワークにおけるトモエガモプロジェクトの活動について

・田尻浩伸(日本野鳥の会)